

次代を拓く



2025年9月期は、売上高、営業利益ともに過去最高となり、14期連続の増益も達成した。国内は防災・減災やインフラの維持管理が堅調で、海外はフィリピンなどで軌道

オリエンタルコンサルタンツ
ホールディングス

野崎 秀則 社長

各分野でオンリーワンに

関連の旺盛な需要が続く見通しだ。各分野でオンリーワンとなり得る技術や事業モデルに磨きをかけ、26年9月期も過去最高を目指す。30年度までの中期経営計画で掲げる売上高1100億円の目標にも、着実に近づいている。

主力の建設コンサルタント事業は、DXで業務プロセスの革新を進める。生成AIの導入やBIM/CIM、i-Constructionに注力する。サービスの幅を広げるため、他社とのアライアンスも欠かせない。

道路や河川、地方創生など分野と、インフラの調査、計画・設計、施工管理、運営といったプロセスの両面をカバーする。ナレッジ化の取り組みも、奈良県田原本町などの事例では、インフラを包括管理するための情報共有基盤を構築

築した。三重県度会町などでは、地域新電力や木質バイオマス発電による脱炭素化に取り組んでいる。

海外は、ブラジルのグリーンアンモニア事業やインドネシアのエビ養殖、コールドチェーン（低温物流網）事業を推進する。昨年5月には、チリで鉱山事業のコンサルティンクを手掛けるスメックチリの株式を取得した。新設した投資事業本部を中心に、非政府開発援助（ODA）案件の開拓にも力を入れる。

建設コンサルタント